

## 開南大学夏季華語・台湾文化研修で学んだこと

文学部日本語日本文学科3年  
上橋 菜那

今回の華語研修では90分×20コマ、計30時間の中国語の講義を受講した。私が受講したクラスは初級クラスであった。このクラスでは中国語の入門として発音や挨拶など基礎的なものを中心に、中国語の童謡なども習った。また、講義においては文法等のみならず中国コマや蹴り羽など伝統的な遊びも体験した。講義の最終日には研修の成果発表会があった。私は他大学の学生と一緒に「涙そうそう」の中国語バージョンを歌い、開南大学の先生方・学生たちへの感謝の気持ちを中国語で研修中の日本・台湾の両学生の研修中の様々な写真とともにスライドショーで流した。成果発表の順位は私たちのグループは一位を頂くことができた。スライドショーの準備は夜遅くまでかかり大変だったが、発表会では皆喜んでくれたので頑張ってたよかったです。文化体験では台湾の歴史的意義を持つ土地を訪れたり、現在発展している場所を訪れ、各地の文化を体験したり、台湾の歴史や日本との歴史的な関わりを学んだ。ランタン等の伝統文化体験や日本統治時代の歴史、台湾の少数民族についての学習、台北の現在発展している様子などを見学した。さらに空き時間には、受け入れ先の開南大学の日本語学科の学生と交流し、互いの言語を教えあったり、お互いの文化の交流をすることができた。また、開南大学の姉妹校の学生として今回の研修に参加していた他大学の様々な学年の学生とも多く交流できた。

研修を通して、1年次に履修していた中国語の理解をさらに深めることができたことはもちろんのこと、文化体験を通し日本統治時代の台湾とのかかわりや現在の日本と台湾との関係を見つめてみることに繋がっただけでなく、現地の学生や先生方、一般の方との交流を通じ中国語や台湾に対する興味関心が高まったことは私にとって大きな収穫である。交流の中で自身の語学力の低さを痛感し、今後はしっかり学習を進め、再度台湾を訪れ、中国語を用いて現地の方と話せるようになりたいと思った。16日間の研修期間は当初はとも長いと考えていたが、あっという間に感じられるほどとても充実していた。



▲中国語の授業の様子



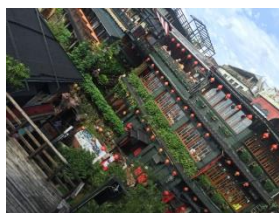
▲成果発表会



▲台北 101 から見た台北市内



▲天燈



▲九份



▲九族文化村



▲開南大学